



せとまちだより

SETOMACHI-COMMUNITY NO29

令和4年4月27日(水)
瀬戸地域まちづくり協議会
壱岐市芦辺町箱崎大左右触924
080-8574-5853
発行責任者 町田 正一

手洗い・マスク・密を避ける・・・忘れないようにしましょう

令和3年度末総会(運営委員会)を開催しました

令和4年3月29日(火)瀬戸地域まちづくり協議会の総会を箱崎地区公民館で開催しました。今年度も壱岐市内に於ける新型コロナ感染状況により、役員・各分会3名・壱岐市地域担当職員・事務局と総数36名の出席者で執り行いました。

令和3年度(基礎額+地域保全型)交付金等収入2,410,666円で、支出2,289,319円で残額121,347円は次年度繰越になります。地域活性化型(加算額)は交付金と参加費などあわせて収入165,545円で支出は165,545円となっています。

主な支出項目は、広報紙「せとまちだより」印刷代・写真のプリント代・レクリエーションボッチャの審判員謝礼・参加賞・景品、環境整備事業にかかる経費・子ども部会事業SDGs標語ポスター募集に関する参加賞や景品・浦会やボランティアグループ活動に対する助成・傷害保険料・放送設備等の備品購入費です。これらは、総会において承認されました。

令和4年度は改選年度であるために、令和3年度実績報告並びに収支決算報告のみの議題でした。

令和4年度交付金	基礎額	1,734,000円	
	地域保全型	300,000円	(広報・環境整備活動に対するもの)
	地域活性化型	150,000円	となっています。

令和4年度事業計画・予算については、役員会等で決定し、新型コロナ感染状況により、総会を開催するようにしていますが、3年度と同様の事業や、予算状況を考慮しながら、新たな事業も展開していきたいと思っています。皆様のご理解、ご協力をお願いします。

お知らせ

地域の皆様ご承知だと思いますが、会長 前田清信氏が、3月26日にご逝去されました。瀬戸浦々会長として、協議会を設立することの取りまとめをはじめ、「まちづくり協議会設立準備委員会」を経て「瀬戸地域まちづくり協議会」設立に至るまで先頭に立ち働かれ、設立後も会長として瀬戸地域の活性化のために尽くして来られました。

また、1月19日には、運営委員吉木京子氏もご逝去されました。レクリエーションボッチャ大会に参加され、子ども達と楽しくゲームされていたことや、「左京鼻で鬼風を揚げよるよ」と情報をいただいたことなどを思い出します。最近まで、一緒に活動をしていた会長や委員さんを失ったことは、ショックで、大変な痛手であります。会長は保護司、吉木さんは民生委員としても地域のために貢献されていました。道半ばで逝かれたお二人のことを想うと、言葉がありません。

持続可能な地域の発展を目標に活動されたことを無駄にしないためにも、どのようなまちづくりをしたら良いか思案する日々です。お二人のご冥福をお祈りいたします。



新会長に町田正一氏決定

前田会長死去に伴い、瀬戸地域まちづくり協議会の会長に町田正一氏が決定しました。



掲示板情報

- 蟹田掲示板・・・昭和の壱岐神社奉納角力の写真
- 箱崎漁協掲示板・・・SDGsポスター3点
- たるや商店さん・・・SDGsポスター3点
- 向町バス停・少式バス停・蟹田バス停
箱崎地区公民館前各プランターに
SDGsポスター看板を設置しています

1992年(H4) 風揚げ大会

会場：ダイエー横の広場(現 イオン)

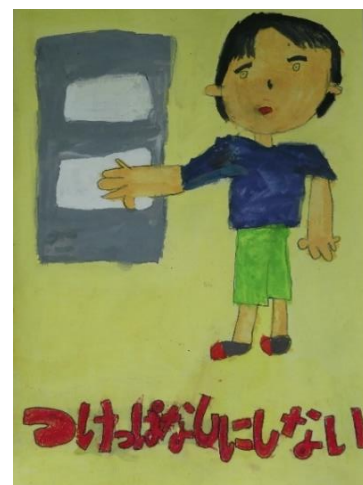


(海をきれいにしましょう) (電気は、つけっぱなしにしない) (水は大切に使いましょう)

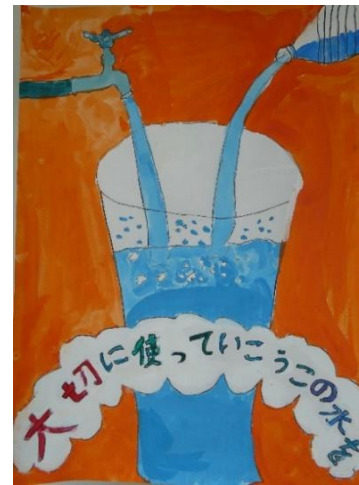
今月のSDGsポスター



大川柚葉 さん



平田果歩 さん



榎本健牙 さん

もっと知れたか恵美須のこつ

恵美須漁港は、北西や南西の風は当たらず眼前に玄界灘が開けたすばらしい景観の港である。

(瀬戸浦史)



昭和27年頃

戦後になり、昭和22年ごろから若人の復員とともに、下久水産の巾着網が復活した。昭和27年には箱崎漁協も巾着網を出すようになった。全盛期には、下久水産2統、漁協3統（内1統は恵美須が基地）となり、瀬戸浦で5統が漁を競い合っていた。

(瀬戸浦史)

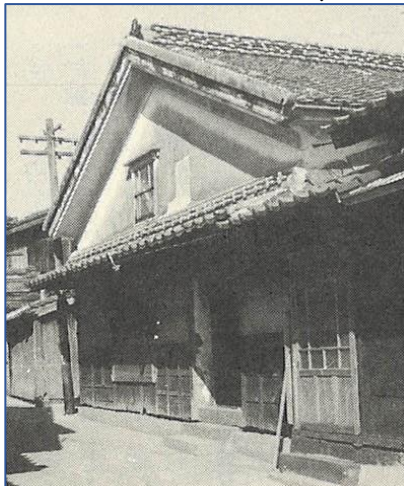


写真提供 大村平自氏

昭和27年頃 イワシ巾着網 下久水産

恵美須は、もと鯨組の根拠地であったので、海岸線に近く、防火壁を設け、また、土蔵倉が多く建てられていた。鯨肉加工のため火の用心には特別配慮していたと思う。明治の末に40戸が、今70戸に（昭和60年ごろ）増えた密集地帯であり、半農半漁のため網納屋、農具舎、牛舎、母屋が雑然と建ちならんでいる。

※大久保岩人氏 調査書より
鯨肉貯蔵庫のある油屋↓



うちん記急日

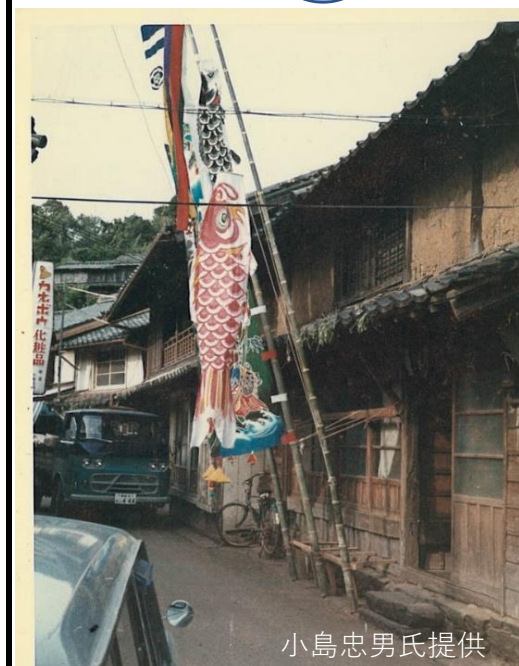
初幟祝

5月1日に男児の初幟祝をする。親から贈られた幟や鯉をあげ、親戚、知人を招いて酒宴が行なわれた。

最近では、初幟祝に限らず5月近くになると毎年、幟や鯉を揚げる家庭もある。



南町 小島家
昭和42年ごろ



小島忠男氏提供



進水祝



1987年（昭和62年）6月21日 事代丸



西町 濱口家

昭和50年、時代の進展と共に、FPR（プラスチック船）が建造され、それまでの木船にくらべ、速力、耐久性などがすぐれており、高価格ではあったが年々、FPR建造へと移行していった。（瀬戸浦史）

とっちゃんの
ひとりごつ



中学校（昭39～）の下校時、サイクサ写真館前を通ると、サービスサイズ（83mm×117mm）のモノクロ写真を、たらいで水洗いしている先代の姿をよく見かけました。店の中は、木枠のガラスケースがあり、フィルム箱が行儀よく並べられていました。出来上がった写真を受け取り、見るまでのワクワク感は今でも思い出します。おもちゃのようなカメラを手にしたのが、小学4年生ころ。今も手元にあるのは、妹弟を写したボケた写真5枚だけ。当時、1日10円のつけせん（小遣い）ではフィルムを買い、現像・プリントするお金はありません。モノクロ現像が100円、プリント代が1枚15円ほどだった気がします。昭和50年代にカラー写真を撮るようになり、現像400円・プリントLサイズ1枚70円。その後、現像500円・プリント1枚50円になりました。（サイクサ写真館の料金が書かれた袋を参照）